

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
設置者	カッポホカジン ヒカシニホボンカクエン 学校法人 東日本学園								
大学の名称	ホッカイクイヨウカクイカクダクイケン 北海道医療大学大学院 (Graduate School of Health Sciences University of Hokkaido)								
大学本部の位置	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地								
大学の目的	北海道医療大学大学院は、生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな専門職業人の育成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	1. 高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉の現場において、先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人を養成する。 2. リハビリテーション領域に関わる最先端の研究を通して創造力・企画力・応用力を涵養し、保健・医療・福祉現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	リハビリテーション科学研究科 (Graduate School of Rehabilitation Sciences) リハビリテーション科学専攻 (Studies in Rehabilitation Sciences) 計	2 2	5 5	— —	10 10	修士 (リハビリテーション科学)	平成25年4月 第1年次	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		北海道医療大学 リハビリテーション科学部 理学療法学科 (80) (平成24年6月届出済み) 作業療法学科 (40) (平成24年6月届出済み)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 計	教授 11 (10)	准教授 1 (1)	講師 2 (2)	助教 1 (1)	計 15 (14)	助手 0 (0)	兼任教員等 9 (9)
組織の概要	既設分	薬学研究科生命薬科学専攻 (修士課程)	14 (14)	11 (11)	11 (11)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)
		薬学研究科薬科学専攻 (博士課程)	15 (15)	12 (12)	12 (12)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	0 (0)
		歯学研究科歯学専攻 (博士課程)	21 (21)	17 (17)	10 (10)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	6 (6)
		看護福祉学研究科看護学専攻 (博士前期課程)	11 (11)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	17 (17)
		看護福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)
		看護福祉学研究科看護学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)
		看護福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	2 (2)
		心理科学研究科臨床心理学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	4 (4)
		心理科学研究科言語聴覚学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		心理科学研究科臨床心理学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		心理科学研究科言語聴覚学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		合計	67 (67)	50 (50)	28 (28)	3 (3)	148 (148)	0 (0)	24 (24)
合計	78 (78)	51 (51)	30 (30)	4 (4)	163 (162)	0 (0)	32 (32)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		52 人 (52)	49 人 (49)	101 人 (101)					
	技 術 職 員		8 人 (8)	9 人 (9)	17 人 (17)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 人 (2)	15 人 (15)	17 人 (17)					
	そ の 他 の 職 員		53 人 (53)	61 人 (61)	114 人 (114)					
計		115 人 (115)	134 人 (134)	249 人 (249)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	歯学部附属歯科衛生士専門学校と共用 大学全体				
	校 舎 敷 地	64,222.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	65,872.53㎡					
	運 動 場 用 地	27,800.00㎡	0㎡	0㎡	27,800.00㎡					
	小 計	92,022.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	93,672.53㎡					
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡					
合 計	149,338.27㎡	1,650.00㎡	0㎡	150,988.27㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		72,209.57㎡ (72,209.57㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	72,209.57㎡ (72,209.57㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	43室	34室	44室	1室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		リハビリテーション科学研究科		16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で共用		
	リハビリテーション科学研究科	249,807 [80,074] (242,157 [79,010])	2,869 [1,118] (2,869 [1,118])	4,185 [3,270] (4,185 [3,270])	6,244 (5,974)	98,014 (97,133)	2,208 (2,208)			
	計	249,807 [80,074] (242,157 [79,010])	2,869 [1,118] (2,869 [1,118])	4,185 [3,270] (4,185 [3,270])	6,244 (5,974)	98,014 (97,133)	2,208 (2,208)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4,866.96 ㎡	437 席		275,000 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		1,746.49 ㎡	屋外野球場・サッカー/ラグビー場・テニスコート (27,800㎡) フィットネスセンター (411㎡)							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	届出研究科全体 共同研究費については大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		451千円	451千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		23,000千円	23,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	4,200千円	2,600千円	2,600千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	246,402千円	123,304千円	8,314千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金			第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		北海道医療大学							
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
			年	人	年次人	人		倍		
	薬学部 薬学科		6	160	3年次 10	950	学士 (薬学)	1.14	昭和49年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地
	歯学部 歯学科		6	80	—	580	学士 (歯学)	0.69	昭和53年度	同上
	看護福祉学部 看護学科		4	100	3年次 9	389	学士 (看護学)	1.02	平成5年度	同上
	臨床福祉学科		4	80	3年次 9	369	学士 (臨床福祉学)	0.84	平成5年度	
	心理科学部 臨床心理学科		4	75	3年次 2	277	学士 (臨床心理学)	1.17	平成14年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目
言語聴覚療法学科		4	60	3年次 10	238	学士 (言語聴覚療法)	1.26			

既設大学等の状況	薬学研究科										
	生命薬科学専攻修士課程	2	3	—	6	修士 (生命薬科学)	0.00	平成22年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地		
	薬学専攻博士課程	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.33	平成24年度			
	歯学研究科								同上		
	歯学専攻博士課程	4	18	—	72	博士 (歯学)	0.60	昭和63年度	同上		
	看護福祉学研究科								同上		
	看護学専攻博士前期課程	2	15	—	30	修士 (看護学)	1.04	平成9年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目		
	臨床福祉学専攻博士前期課程	2	5	—	10	修士 (臨床福祉学)	0.90	平成16年度			
	看護学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	0.33	平成11年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目		
	臨床福祉学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (臨床福祉学)	0.00	平成16年度			
	心理科学研究科										
	臨床心理学専攻博士前期課程	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	1.00	平成16年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目		
	言語聴覚学専攻博士前期課程	2	5	—	10	修士 (言語聴覚学)	0.10	平成18年度			
	臨床心理学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	1.00	平成16年度			
言語聴覚学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (言語聴覚学)	0.17	平成18年度				
附属施設の概要	<p>名称 個体差健康科学研究所 目的 本学の行動指針「21世紀の新しい健康科学の構築」に基づき、文理統合による個体差健康科学の確立を目指し、併せて人類の健康と医療の発展に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成14年1月 規模等 土地：524.00㎡ 建物：808.45㎡</p> <p>名称 動物実験センター 目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和63年12月 規模等 土地：624.00㎡ 建物：1,866.70㎡</p> <p>名称 アイソトープ研究センター 目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和57年3月 規模等 土地：1,650.00㎡ 建物：1,239.09㎡</p> <p>名称 個体差医療科学センター 目的 地域医療の充実に貢献するため、医科学関連分野における研究を行うことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p> <p>名称 北海道医療大学病院 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び医科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p> <p>名称 歯科内科クリニック 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び医科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：3,848.00㎡ 建物：7,772.48㎡</p> <p>名称 心理臨床・発達支援センター 目的 心理臨床、発達支援に関する研究・研修・調査を行うとともに、本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程学生の心理臨床実習の場としての機能を果たすことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成15年6月 規模等 建物：141.9㎡</p> <p>名称 薬学部附属薬用植物園 目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和60年9月 規模等 総面積：2,558.00㎡ (内、温室341.46㎡)</p>										

	<p>名称 北方系生態観察園 目的 日本薬局方に記載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成13年6月 規模等 総面積：153,000㎡</p> <p>名称 北方系伝統薬物研究センター 目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成21年8月 規模等 土地：342,00㎡ 建物：552,60㎡</p>	
--	--	--

学校法人東日本学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成24年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
北海道医療大学					北海道医療大学					
薬学部	薬学科	160	3年次 10	1,000	薬学部	薬学科	160	3年次 10	1,000	
歯学部	歯学科	80	3年次 -	480	歯学部	歯学科	80	3年次 -	480	
看護福祉学部	看護学科	100	3年次 9	418	看護福祉学部	看護学科	100	3年次 9	418	
	臨床福祉学科	80	3年次 9	338		臨床福祉学科	80	3年次 9	338	
心理科学部	臨床心理学科	75	3年次 2	304	心理科学部	臨床心理学科	75	3年次 2	304	
	言語聴覚療法学科	60	3年次 10	260		言語聴覚療法学科	60	3年次 10	260	
					<u>リハビリテーション科学部</u>	<u>理学療法学科</u>	<u>80</u>	<u>2年次 5</u>	<u>335</u>	学部の設置 (届出)
						<u>作業療法学科</u>	<u>40</u>	<u>2年次 5</u>	<u>175</u>	学部の設置 (届出)
北海道医療大学大学院					北海道医療大学大学院					
薬学研究科	生命薬科学専攻(M)	3	-	6	薬学研究科	生命薬科学専攻(M)	3	-	6	
	薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12		薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12	
歯学研究科	歯学専攻(D)	18	-	72	歯学研究科	歯学専攻(D)	18	-	72	
	看護福祉学研究科	看護学専攻(M)	15	-		30	看護福祉学研究科	看護学専攻(M)	15	-
	看護学専攻(D)	2	-	6		看護学専攻(D)	2	-	6	
	臨床福祉学専攻(M)	5	-	10		臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	
	臨床福祉学専攻(D)	2	-	6		臨床福祉学専攻(D)	2	-	6	
心理科学研究科	臨床心理学専攻(M)	10	-	20	心理科学研究科	臨床心理学専攻(M)	10	-	20	
	臨床心理学専攻(D)	2	-	6		臨床心理学専攻(D)	2	-	6	
	言語聴覚学専攻(M)	5	-	10		言語聴覚学専攻(M)	5	-	10	
	言語聴覚学専攻(D)	2	-	6		言語聴覚学専攻(D)	2	-	6	
					<u>リハビリテーション科学研究科</u>		<u>5</u>	-	<u>10</u>	研究科の設置 (届出予定)
						<u>リハビリテーション科学専攻(M)</u>				
北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					
	歯科衛生科(3年制)	50	-	150		歯科衛生科(3年制)	50	-	150	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
看護福祉学研究科 看護学専攻	修士 (看護学)	保健衛生学	看護福祉学研究科 看護学専攻	20	9	看護福祉学研究科 看護学専攻	修士 (看護学)	保健衛生学	看護福祉学研究科 看護学専攻	20	9
			退職	2	2				新規採用	2	2
									大学教育開発センター	1	0
			計	22	11				計	23	11
歯学部 歯学科	学士 (歯学)	歯学	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	1	0	歯学部 歯学科	学士 (歯学)	歯学	歯学部 歯学科	108	26
			歯学部 歯学科	108	26				新規採用	2	2
			退職	2	2						
			計	111	28				計	110	28
大学教育開発センター			看護福祉学研究科 看護学専攻	1	0	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	修士 (リハビリテーション科学)	保健衛生学	歯学部 歯学科	1	1
			リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	2	1				大学教育開発センター	2	1
									新規採用	12	9
			計	3	1				計	15	11

「歯学部」から「リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻」への異動者は歯学部においては大学院担当の発令はなく、異動先において学部と研究科担当の発令を併せて行うものです。また、（助教以上1—うち教授0）となっているものが、異動先において（1—1）と表示されているのは、教授への昇任予定があるためです。

基礎となる研究科等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は学科 の分野	手続きの区分
平成9年4月	看護福祉学研究科看護学専攻設置 (看護福祉学研究科 看護学専攻 および臨床福祉学・心理学専攻設置)	保健衛生学関係 社会学・社会福祉 学関係、文学関係	設置認可(研究科)
平成11年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)設置 看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	保健衛生学関係 保健衛生学関係	設置認可(課程) 学則変更
平成12年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)のカリキュラム変更	保健衛生学関係	学則変更
平成14年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)のカリキュラム変更 看護福祉学研究科看護学専攻(博士課程)のカリキュラム変更	保健衛生学関係 保健衛生学関係	学則変更 学則変更
平成16年4月	臨床福祉・心理学専攻の廃止に伴う臨床福祉学専攻の設置 臨床福祉学専攻の収容定員	社会学・社会福祉 学関係	設置届出(専攻)
平成19年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)カリキュラム変更	保健衛生学関係	学則変更
平成20年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)カリキュラム変更	保健衛生学関係	学則変更
平成22年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)カリキュラム変更	保健衛生学関係	学則変更
平成23年4月	看護福祉学研究科看護学専攻(修士課程)カリキュラム変更	保健衛生学関係	学則変更
平成25年4月	リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)設置	保健衛生学関係	設置届出(研究科)

教 育 課 程 等 の 概 要

リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 修士課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	リハビリテーション教育特論	1・2後	2			○			2							オムニバス	ｽﾃｲ
	リハビリテーション管理学特論	1・2後	2			○			2						兼2	オムニバス	ｽﾃｲ
	リハビリテーション研究法特論Ⅰ（研究計画）	1前	2			○			1		1					オムニバス	ｽﾃｲ
	リハビリテーション研究法特論Ⅱ（量的研究）	1前	2			○			1	1						オムニバス	ｽﾃｲ
	リハビリテーション研究法特論Ⅲ（質的研究&事例研究）	1前	2			○			1			1			兼1	オムニバス	ｽﾃｲ
	医療英語特論	1・2前		2		○									兼1		
	医療経済学特論	1・2後		2		○						1					
	生命科学特論	1・2前		2		○			1								
	精神保健学特論	2前		2		○			1								
	神経科学特論	1・2前		2		○									兼2	オムニバス	
	保健医療統計学特論	1後		2		○									兼1		ｽﾃｲ
小計（11科目）		—	12	10	0	—			9	1	2	1	0	兼7			
専門科目	生体構造機能・ 病態解析学分野	解剖学特論	1・2前		2		○			1					兼1	オムニバス	
		解剖学演習	1・2前		2			○		1					兼1	オムニバス	
		身体運動科学特論	1・2前		2		○			1		1				オムニバス	
		身体運動科学演習	1・2後		2			○		1		1				オムニバス	
		運動・動作解析学特論	1・2前		2		○			1							
		運動・動作解析学演習	1・2後		2			○		1							
		小計（6科目）		—	0	12	0	—			3	0	1	0	0	兼1	
	リハビリテーション 治療学分野	内部障害リハビリテーション学特論	1・2前		2		○			1							
		内部障害リハビリテーション学演習	1・2後		2			○		1							
		運動障害リハビリテーション学特論	1・2前		2		○			1			1			オムニバス	
運動障害リハビリテーション学演習		1・2後		2			○		1			1			オムニバス		
発達障害リハビリテーション学特論		1・2前		2		○			1								
発達障害リハビリテーション学演習		1・2後		2			○		1								
精神障害リハビリテーション学特論		1・2前		2		○				1					兼1	オムニバス	
精神障害リハビリテーション学演習	1・2後		2			○			1								
小計（8科目）		—	0	16	0	—			3	1	0	1	0	兼1			
地域健康生活 支援学分野	作業行動学特論	1・2前		2		○			2							オムニバス	
	作業行動学演習	1・2後		2			○		2							オムニバス	
	地域生活支援学特論	1・2前		2		○			1								
	地域生活支援学演習	1・2後		2			○		1								
小計（4科目）		—	0	8	0	—			3	0	0	0	0	兼0			
隣接科目	公衆衛生調査法	1・2前		2		○									兼3	オムニバス	
	遺伝医学・医療論	1・2後		1		○									兼3	オムニバス	
	心身医学特論	1・2後		1		○									兼1		
	ヘルスプロモーション論	1・2後		2		○									兼1		
	音楽療法特論	1・2前		2		○									兼2	オムニバス	
	障害福祉学特論	1・2前		2		○									兼1		
	高齢者福祉学特論	1・2前		2		○									兼1		
	小計（7科目）		—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼12		
研究指導	リハビリテーション科学研究	2通	8					○	11	1	2	1					
	小計（1科目）			8	0	0	—			11	1	2	1	0	兼0		
合計（37科目）		—	20	58	0	—			11	1	2	1	0	兼21			
学位又は称号		修士（リハビリテーション科学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
<ul style="list-style-type: none"> 共通科目から必修12単位を履修する。 専門科目から専攻する領域の特論・演習4単位を履修する。 研究指導8単位を履修する。 上記ならびに選択科目を含め、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。（ただし、専門科目の演習は同一科目名の特論の履修を条件とする。） 									1学年の学期区分			2学期					
									1学期の授業機関			15週					
									1時限の授業時間			80分					

教育課程等の概要

(リハビリテーション科学部理学療法学科) 一研究科の基礎となる学部①

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論)	1前	1				○		4		2			兼5	
	文章指導 (日本語の表現)	1前	1				○		4		1	1		兼5	
	人間と思想 (心理学)	1後		2		○								兼1	
	人間と思想 (死生学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と思想 (哲学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の経済学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の法学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (国際社会福祉論)	3前		2		○								兼3	オムニバス
	人間と文化 (文化人類学)	1前		2		○								兼1	
	人間と文化 (環境の歴史)	2後		2		○								兼1	
	人間と文化 (国際文化比較論)	2前		2		○								兼3	オムニバス
	自然と科学 (生命科学)	1前	2			○								兼1	
	英語 I (オラル・イングリッシュA)	1前	1					○						兼3	
	英語 I (オラル・イングリッシュB)	2前	1					○						兼3	
	英語 II (英語A)	1後		1				○						兼1	
	英語 II (英語B)	2後		1				○						兼1	
	中国語 (中国語)	1前		1				○						兼1	
	韓国語 (韓国語)	1後		1				○						兼1	
	フランス語 (フランス語)	2後		1				○						兼1	
	ドイツ語 (ドイツ語)	2前		1				○						兼1	
	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1					○						兼1	
	統計学 (基礎統計学)	3前	2				○							兼1	
	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2					○		1				兼1	
	自然科学入門 (基礎数理)	1前	1					○						兼1	
	自然科学入門 (物理学)	1後	2					○						兼1	
	自然科学入門 (生物学)	1後		2				○						兼1	
	自然科学入門 (化学)	1後		2				○						兼1	
	個体差健康科学 (個体差健康科学)	1前	2					○						兼1 5	オムニバス
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2					○						兼1	
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前			1				○	4		1	1	兼5	
	地域連携 (メディアカルフェをつくる I)	2前			1				○					兼5	集中
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1						○	4		2		兼5	
小計 (32科目)	—	—	19	30	0			—	8	0	3	1	0	兼47	
専 門 基 礎 科 目	解剖学 I	1前	1				○		1					兼2	オムニバス
	解剖学 II	1後	1				○		1					兼2	オムニバス ※演習
	解剖学実習	2前	1					○	1					兼2	
	生理学 I	1前	1				○							兼1	※演習
	生理学 II	1後	1				○							兼1	※演習
	生理学実習	1後	1					○	1		2	1		兼6	
	運動生理学	2前	1				○				1				※演習
	運動学 I	1後	1				○		1						※演習
	運動学 II	2前	1				○		1						※演習
	運動学実習	2後	1					○	2		2	1		兼3	
	老年学	2前	1				○							兼2	オムニバス
	人間発達学	2前	1				○		1					兼1	オムニバス
	医学概論	1前	1				○							兼1	
	病理学	2前	1				○							兼2	オムニバス
	整形外科	2前	2				○							兼1	
	内科学	2後	2				○							兼4	オムニバス
	神経学	2後	2				○							兼1	
	小児科学	2後	1				○							兼1	
	精神医学	2前	2				○							兼1	
	病態運動学	2後	1				○		3						オムニバス ※演習
	高次脳機能障害学	2後		1			○							兼1	
臨床心理学	2後	1				○							兼1		
薬理学	2後		1			○							兼1		
公衆衛生学	2後	1				○							兼2	オムニバス	
栄養学	2後		1			○							兼1		

	リハビリテーション概論	1前	2			○			1					兼2	オムニバス	
	保健医療福祉論	3前	1			○			1					兼3	オムニバス	
	障がい者当事者論	2前	1				○		1					兼1	オムニバス	
	作業療法概論	1前		2		○								兼8	オムニバス	
	作業適学	1後		2		○								兼8	オムニバス	
	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1				○		1							
	小計 (31 科目)	—	31	7	0	—			7	0	3	1	0	兼32		
専 門 科 目	理学療法概論	1前	2			○			2						オムニバス	
	基礎理学療法学	1後	2			○			5						オムニバス	
	理学療法管理・運営論	4後	1			○			1							
	理学療法研究法	3前	2			○			1							
	理学療法英文原著読解	2通	2				○		8		3	1				
	医療コミュニケーション	2後	1				○		7		3	1				
	理学療法基礎評価学Ⅰ	2通	2				○		2		2				オムニバス	
	理学療法基礎評価学Ⅱ	2通	2				○		3			1			オムニバス	
	理学療法評価学総合演習	2後	1				○		7		3	1				
	画像診断学	3後	1				○								兼1	
	物理療法学	3前	2				○		1		1	1			オムニバス ※演習	
	運動療法学Ⅰ	2前	1				○		1		2				オムニバス ※演習	
	運動療法学Ⅱ	2後	1				○		1		1	1			オムニバス ※演習	
	義肢装具学Ⅰ	2後	1				○		2						兼3	
	義肢装具学Ⅱ	3前	1				○		2						兼3	
	日常生活動作学Ⅰ	2前	1				○		2		1				オムニバス ※演習	
	日常生活動作学Ⅱ	2後	1				○		2		1				オムニバス ※演習	
	骨関節障害理学療法学	3前	2				○		1							
	骨関節障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1					
	神経障害理学療法学	3前	2				○		1			1			オムニバス	
	神経障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1	1				
	発達障害理学療法学	3前	2				○		1							
	発達障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1					
	内部障害理学療法学	3前	2				○		2						オムニバス	
	内部障害理学療法学演習	3後	2					○	2		1					
	理学療法治療学総合演習	3後	1					○	7		3	1				
	スポーツ障害理学療法論	3後		1			○								兼2	
	ハンドセラピー	3前		1			○								兼1	
	神経筋促通治療論	3後		1			○		1						兼1	
	徒手療法論	3後		1			○								兼1	
	リハビリテーション工学	3前		1			○								兼2	
	地域理学療法学	3前	2				○		1							
地域理学療法学演習	3後	1					○	1		1						
生活環境論	3前	1				○		1		1				オムニバス		
国際協力と理学療法	4後		2			○				1						
健康増進と理学療法	4後		1			○		1		1				オムニバス		
障害者スポーツ指導論	4後		1			○		1						兼3		
臨床実習Ⅰ	1通	1					○	7		3	1			集中		
臨床実習Ⅱ	2後	2					○	7		3	1					
臨床実習Ⅲ	3後	6					○	7		3	1					
臨床実習Ⅳ	4前	8					○	7		3	1					
臨床実習Ⅴ	4前	3					○	7		3	1					
	小計 (42 科目)	—	65	9	0	—			8	0	3	1	0	兼12		
	理学療法総合講義	4後	1				○	8		3	1					
	理学療法研究セミナーⅠ	3通	2				○	8		3	1					
	理学療法研究セミナーⅡ	4通	2				○	8		3	1					
	小計 (3 科目)	—	5	0	0	—			8	0	3	1	0	兼0		
合計 (108 目)		—	120	46	0	—			8	0	3	1	0	兼76		
学位又は称号		学士 (理学療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学教育科目 27 単位以上 (うち必修 19 単位)、専門教育科目 101 単位以上 (うち必修 101 単位)、合計 128 単位以上修得し、卒業論文を提出する。						1 学年の学期区分			2 学期							
						1 学期の授業機関			15 週							
						1 時限の授業時間			80 分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション科学部作業療法学科) - 研究科の基礎となる学部②

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー (コミュニケーション実践論)	1前	1				○		2		3			兼6	
	文章指導 (日本語の表現)	1前	1				○		2	1	1	1		兼6	
	人間と思想 (心理学)	1後		2		○								兼1	
	人間と思想 (死生学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と思想 (哲学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の経済学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (医療の法学)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会 (国際社会福祉論)	3前		2		○					1			兼2	オムニバス
	人間と文化 (文化人類学)	1前		2		○								兼1	
	人間と文化 (環境の歴史)	2後		2		○					1				
	人間と文化 (国際文化比較論)	2前		2		○								兼3	オムニバス
	自然と科学 (生命科学)	1前	2			○			1						
	英語 I (オラル・イングリッシュA)	1前	1				○							兼3	
	英語 I (オラル・イングリッシュB)	2前	1				○							兼3	
	英語 II (英語A)	1後		1			○							兼1	
	英語 II (英語B)	2後		1			○							兼1	
	中国語 (中国語)	1前		1			○							兼1	
	韓国語 (韓国語)	1後		1			○							兼1	
	フランス語 (フランス語)	2後		1			○							兼1	
	ドイツ語 (ドイツ語)	2前		1			○							兼1	
	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1					○						兼1	
	統計学 (基礎統計学)	3前	2				○							兼1	
	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2					○						兼2	
	自然科学入門 (基礎数理)	1前	1					○						兼1	
	自然科学入門 (物理学)	1後		2			○							兼1	
	自然科学入門 (生物学)	1後	2				○		1						
	自然科学入門 (化学)	1後		2			○							兼1	
	個体差健康科学 (個体差健康科学)	1前	2				○				1			兼1 4	オムニバス
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2				○							兼1	
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前		1				○		2		3		兼6	
	地域連携 (メディアカフェをつくる I)	2前		1				○		1		1		兼3	集中
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1					○		2	1	1	1	兼6	
小計 (32 科目)	—	—	19	30	0		—		4	1	5	1	0	兼46	
専 門 基 礎 科 目	解剖学 I	1前	1			○								兼3	オムニバス ※演習
	解剖学 II	1後	1			○								兼3	オムニバス ※演習
	解剖学実習	2前	1					○						兼3	
	生理学 I	1前	1			○								兼1	※演習
	生理学 II	1後	1			○								兼1	※演習
	生理学実習	1後	1					○			2	1		兼7	
	運動生理学	2前	1			○								兼1	※演習
	運動学 I	1後	1			○								兼1	※演習
	運動学 II	2前	1			○								兼1	※演習
	運動学実習	2後	1					○	1		2			兼5	
	老年学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	人間発達学	2前	1			○					1			兼1	オムニバス
	医学概論	1前	1			○			1						
	病理学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	整形外科学	2前	2			○								兼1	
	内科学	2後	2			○								兼4	オムニバス
	神経学	2後	2			○			1						
	小児科学	2後	1			○								兼1	
	精神医学 I	2前	2			○			1						
	精神医学 II	2後	2			○			1						
	病態運動学	2後	1			○								兼3	オムニバス ※演習
	高次脳機能障害学	2後	1			○			1						
	臨床心理学	2後	1			○								兼1	
	薬理学	2後		1		○								兼1	
	公衆衛生学	2後	1			○								兼2	オムニバス
	栄養学	2後		1		○								兼1	
リハビリテーション概論	1前	2			○			2					兼1	オムニバス	
理学療法概論	1前		2		○								兼2	オムニバス	
基礎理学療法学	1後		2		○								兼5	オムニバス	
保健医療福祉論	3前	1			○								兼4	オムニバス	
障がい者当事者論	2前	1				○					1		兼1	オムニバス	

	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1				○							兼1	
	小計 (32 科目)	—	34	6	0		—		3	0	4	1	0	兼33	
専 門 科 目	作業療法概論	1前	2			○			2	1	4	1			オムニバス
	職業倫理・管理学	4後	1			○			1						
	作業療法技術学演習Ⅰ	2前	1				○		2	1	4	1			
	作業療法技術学演習Ⅱ	2後	1				○		2	1	4	1			
	作業療法研究法	3前	1			○			2	1					
	評価学概論	2前	1			○						3	1		オムニバス
	身体機能評価学Ⅰ	2後	1				○		1			2			オムニバス
	身体機能評価学Ⅱ	3前	1				○		1			2			オムニバス
	精神機能評価学	2後	1				○		1	1			1		オムニバス
	発達系評価学	2後	1				○					1			
	評価学実習	2後	1					○	2	1	4	1			
	画像診断学	3後		1			○								兼1
	日常生活援助学	2後	2				○					2			オムニバス
	日常生活援助学演習	3前	1					○				2			
	身体障害作業療法学	3前	2				○		1						
	身体障害作業療法学演習	3後	1					○	1						
	精神障害作業療法学	3前	2				○		1				1		
	精神障害作業療法学演習	3後	1					○	1				1		
	発達障害作業療法学	3前	2				○					1			
	発達障害作業療法学演習	3後	1					○				1			
	老年期障害作業療法学	3前	2				○		1						
	老年期障害作業療法学演習	3後	1					○	1						
	高次脳機能障害作業療法学	3前	2				○					1			
	高次脳機能障害作業療法学演習	3後	1					○				1			
	義肢装具学	3後	2				○					1			兼4
	作業適用学	1後	2				○		2	1	4	1			オムニバス
	音楽療法	3前		1			○				1				
	ハンドセラピー	3前		1			○								兼1
	徒手療法論	3後		1			○								兼1
	呼吸リハビリテーション学	3前		1			○		1	1					兼1
	神経筋促通治療論	3後		1			○		1						兼1
	園芸療法	3前		1			○				1		1		兼1
地域作業療法学	3前	2				○					2			兼1	
地域作業療法学演習	3後	1					○				2				
リハビリテーション工学	3前	1				○		1			1				
就業援助論	4後	1				○		1							
介護技術方法論	3前		1			○								兼2	
臨床見学	1前	1					○	2	1	4	1			オムニバス	
評価実習	2後	4					○	2	1	4	1			集中	
総合臨床実習Ⅰ	3後	9					○	2	1	4	1				
総合臨床実習Ⅱ	4前	9					○	2	1	4	1				
	小計 (41 科目)	—	62	8	0		—		2	1	4	1	0	兼11	
	作業療法学総合講義	4後	1				○	4	1	4	1				
	作業療法研究セミナーⅠ	3通	2				○	4	1	4	1				
	作業療法研究セミナーⅡ	4後	2				○	4	1	4	1				
	小計 (3 科目)	—	5	0	0		—		4	1	4	1	0	兼0	
	合計 (108 科目)	—	120	44	0		—		4	1	5	1	0	兼76	
学位又は称号	学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学教育科目 27 単位以上 (うち必修 19 単位)、専門教育科目 101 単位以上 (うち必修 101 単位)、合計 128 単位以上修得し、卒業論文を提出する。								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業機関				15 週			
								1 時限の授業時間				80 分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護福祉学研究科 看護学専攻 修士課程) 一屆出研究科において授与する学位と同一の種類及び分野の学位を授与する既設研究科

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護学専攻コア科目Ⅰ	基礎看護学特論	1通		2		○			1							
	看護管理学特論	1通		2		○								兼1	オムニバス	
	地域・在宅看護学特論	1通		2		○				3					オムニバス	
	感染看護学特論	1通		2		○										
	基礎看護学演習	1～2通		4			○		1							
	看護管理学演習	1～2通		4			○				1					
	地域・在宅看護学演習	1～2通		4			○			2					オムニバス	
	感染看護学演習	1～2通		4			○		1		1				オムニバス	
	小児看護学特論	1通		2		○			1					兼1	オムニバス	
	母性看護学特論	1通		2		○				1				兼1	オムニバス	
	成人看護学特論	1通		2		○			1	1	1				オムニバス	
	老年看護学特論	1通		2		○			1	1					オムニバス	
	精神看護学特論	1通		2		○				1				兼1	オムニバス	
	がん看護学特論	1通		2		○			2						オムニバス	
	小児看護学演習	1～2通		4			○		1					兼1		
	母性看護学演習	1～2通		4			○			1						
	成人看護学演習	1～2通		4			○		1		1					
	老年看護学演習	1～2通		4			○		1	1						
	精神看護学演習	1～2通		4			○			1						
	がん看護学演習	1～2通		4			○		2							
	看護学課題研究	2通		6				○	7	2						
	臨床看護学課題研究	2通		2				○	4							
	臨地実習Ⅰ	1通			2			○	7	7	2					
	臨地実習Ⅱ	1～2通			4			○	5	5	1					
	臨地実習Ⅲ	1～2通			4			○	3		1					
	臨地実習Ⅳ	1～2通			6			○	3		1					
小計 (26 科目)		—	2	82	0	—			7	7	2	0	0	兼4		
看護学専攻コア科目Ⅱ	感染症学特論	1・2通		2		○			1					兼1	オムニバス	
	感染予防学特論	1・2通		2		○			1					兼1	オムニバス	
	腫瘍学特論	1・2通		2		○			1							
	病態治療論	1・2通		2		○			2					兼1	オムニバス	
	病態治療論 (高度実践看護)	1・2通		2		○			1					兼4	オムニバス	
	感染制御薬理学特論	1・2通		2		○								兼1		
	薬理学特論 (高度実践看護)	1・2通		2		○			1					兼3	オムニバス	
	疾病予防・管理論	1・2通		2		○			1		1				オムニバス	
	フィジカルアセスメント特論	1・2通		2		○			1		1			兼2	オムニバス	
	保健福祉論Ⅰ (慢性病)	1・2通		2		○								兼1		
	保健福祉論Ⅱ (精神障害)	1・2通		2		○								兼1		
	看護教育特論	1・2通		2		○			1					兼1	オムニバス	
	看護管理特論	1・2通		2		○								兼2	オムニバス	
	看護理論特論	1・2通		2		○			2					兼1	オムニバス	
	看護倫理特論	1・2通		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
	コンサルテーション論	1・2通		2		○			1					兼1	オムニバス	
	家族ケア論	1・2通		2		○			1							
	高度実践看護学特論	1通		2		○			1							
	高度実践看護学演習	1～2通		4		○			1		1					
	小計 (19 科目)		—	0	40	0	—			7	1	1	0	0	兼15	
看護福祉学研究科共通科目	研究方法論Ⅰ (研究計画法)	1・2通		2		○			1							
	研究方法論Ⅱ (質的研究法)	1・2通		2		○			1					兼1	オムニバス ※演習	
	研究方法論Ⅲ (量的研究法)	1・2通		2		○								兼2	オムニバス	
	研究方法論Ⅳ (公衆衛生調査法)	1・2通		2		○								兼3	オムニバス	
	地域生活ケア論Ⅰ (高齢者)	1・2通		1		○								兼1		
	地域生活ケア論Ⅱ (精神障害)	1・2通		1		○				1				兼1	オムニバス	
	地域生活ケア論Ⅲ (緩和ケア)	1・2通		1		○								兼1		
	地域生活ケア論Ⅳ (薬理学特論)	1・2通		1		○								兼2	オムニバス	
	地域生活ケア論Ⅴ (顎口腔機能学特論)	1・2通		1		○								兼1		
	地域生活ケア論Ⅵ (子ども)	1・2通		1		○								兼1		
	医療英語特論	1・2通		2		○								兼1		
	遺伝医学・医療論	1・2通		1		○								兼3	オムニバス	
	ヘルスプロモーション論	1・2通		2		○								兼1		
	精神医学特論	1・2通		2		○								兼1		
	カウンセリング	1・2通		2		○								兼1		
	生殖医療文化論	1・2通		1		○								兼1		
	心身医学特論	1・2通		1		○								兼1		
	臨床発達心理学特論	1・2通		2		○								兼1		
	音楽療法研究Ⅰ	1・2通		2				○						兼1		
小計 (19 科目)		—	0	29	0	—			2	1	0	0	0	兼23		
合計 (64 科目)			2	151	0	—			9	8	2	0	0	兼41		
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
・看護学専攻コア科目Ⅰから16単位 (専攻分野の特論2単位と演習科目4単位および「臨地実習Ⅰ」2単位、ならびに他の専攻分野の特論科目2単位の計10単位、課題研究6単位)を履修する。 ・研究方法論Ⅰ～Ⅳは4単位以上履修する。 ・上記を含め、合計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業機関			15週						
							1時限の授業時間			80分						

授 業 科 目 の 概 要

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共通科目	リハビリテーション教育特論	<p>(概要)</p> <p>リハビリテーション臨床における教育(実習指導者)に有用な理論や実践報告を通して、効果的かつ合理的な教育指導について学ぶ。 (オムニバス方式/15回)</p> <p>(9 鎌田樹寛/8回) リハビリテーション専門職領域における教育的指導者育成の観点から、教育指導(教授)法や教育計画の作成、並びに評価法等について講義や討議を重ねて理解を深める。また、教育指導に関連される「モチベーション」に関する最新の知識を基にその適用や応用について討議する。</p> <p>(3 小島 悟/7回) リハビリテーション専門職を養成するうえで重要な位置を占めている臨床実習教育をテーマに取り上げて、その意義や教育目標・方法、さらには具体的な指導方法について討議することを通して、リハビリテーション専門職養成教育における臨床実習指導のあり方を考察する。</p>	オムニバス方式
	リハビリテーション管理学特論	<p>(概要)</p> <p>保健・医療・福祉をはじめとする様々な領域における理学療法や作業療法は、疾病構造変化や技術革新に伴う医療の専門分化を背景に国民の医療・保健サービスへの多様なニーズに応える必要がある。そのためには、スペシャリストであると同時にジェネラリストであり、また他職種との連携を有機的に進められるコーディネーターでなくてはならない。これらに対する現状の課題を多面的に分析し具体的実践に向けた思考を涵養する。 (オムニバス方式/15回)</p> <p>(2 泉 唯史/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織管理概論 ・組織運営概論 ・人間関係論 ・部門管理者の資質、他部門との協業 ・セラピスト養成校における組織作りと組織管理 <p>(4 鈴木英樹/4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携に関する様々なモデル、連携の必要性 ・セラピスト間における連携の現状と課題 ・多職種連携における現状と課題 ・多職種連携を推進するためのセラピストの資質 <p>(26 今野多美子/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの現状と課題 ・看護師職から見たセラピストとの連携の現状と課題 ・医療機関内における組織作りと組織管理 <p>(30 清水兼悦/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬、介護報酬の仕組み ・リハビリテーション部門の業務管理、人事管理、教育・研究管理 ・北海道作業療法士会における組織作りと組織管理 	オムニバス方式
	リハビリテーション研究法特論Ⅰ(研究計画)	<p>(概要)</p> <p>研究の意義やその目的、研究デザインや倫理的配慮に基づいた研究の進め方、研究資料の検索や読解方法、研究計画書やプレゼンテーション資料の作成方法などについて学習し、リハビリテーション医学領域における研究計画の立案に必要とされる基礎的知識を身につける。 (オムニバス方式/15回)</p> <p>(6 堀本佳誉/8回) 研究計画の立案に必要とされる基本的概念(研究の種類や目的、対象者の選択、評価・観察因子の選択と測定)について解説するとともに、研究倫理とその審査方法について講義を行う。 (14 宮崎充功/7回) 原著論文をはじめとする研究資料の検索・収集や読解方法について学習し、クリティカルレビューを行うための基本的能力を身につける。また研究計画の立案方法について具体的事例を通して学習し、研究計画書の作成へ向けた基本的能力を身につける。</p>	オムニバス方式
	リハビリテーション研究法特論Ⅱ(量的研究)	<p>(概要)</p> <p>リハビリテーションの効果を表す尺度は脳波や筋電図といった神経生理学的なパラメータから比較対象試験、さらには疫学的調査研究まで幅広い。本講義では、こうした対象者の変化を量的変化としてとらえるための手法を学び、リハビリテーションの効果を科学的に立証するためのスキルを身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/15回)</p> <p>(5 吉田 晋/8回) 脳波、筋電図などの神経生理学的パラメータの計測と解析、運動機能やADL能力などの間隔、順序尺度データの解析手法について担当する。</p> <p>(13 浅野雅子/7回) 比較試験、RCT、メタ分析といった臨床データの解析手法について担当する。</p>	オムニバス方式

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	リハビリテーション研究法特論Ⅲ(質的研究&症例研究)	<p>リハビリテーションを実践する臨床家は、いつの時代においても目の前の対象者に対して、最善の治療を提供し続ける努力が必要である。そのためには、ある特定の治療が、どの程度有効なのかを検討する方法を習得しなければならない。したがって、治療効果を検討するための方法論である、症例研究及び質的研究の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(16 大塚裕之/4回) 理学療法・作業療法の科学の始まりは、自身の臨床経験を定性的・定量的な指標を用いて、病態を記述することである。本講義の目的は、記述研究としての症例報告の意義と方法を学び、実際の症例についての治療経験や病態の発現メカニズムの考察を行う。</p> <p>(10 本家寿洋/4回) 治療の有効性を検討する科学的方法として、シングルシステムデザインがある。本講義では、この方法の目的と基本的な研究デザインをいくつか紹介し、効果判定の方法に沿って、演習を取り入れながら学ぶ。</p> <p>(31 村田和香/7回) リハビリテーション研究の一方法として、質的研究方法の特徴および方法論とその手法について理解を深めるため、質的研究の特徴と適用を量的研究との比較において明確にし、研究論文のクリティークやミニ演習を取り入れながら質的研究について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	医療英語特論	<p>15回の講義演習の「上位目標」を専門分野の英文文献等の読み込みの際に有用な医学・生命科学用語の成り立ちや用法が理解できるということに設定する。そしてその上位目標を達成するために当該講座終了時に達成していた「学習目標」は、医学・生命科学用語の語源・派生語・語法等に十分なれることにおく。テキスト(The Concise Human Body Book, Steve Parker 著、DK社版、ISBN9781 4053 4041 0)を読み込むプロセスを活用して将来専門分野の文献購読に役立つ語彙形成を強化する。ギリシャ語・ラテン語の語源にまで戻ると用語の成り立ちを学ぶとともに、派生語を多く渉猟し学習者が独自に一人一人のニーズに合った語彙表を策定するとともに記憶作業を合理化する。習熟度の評価は文章読解に関わる試験もしくは口頭試験によって行う。</p>	
	医療経済学特論	<p>現代日本の医療経済の基本的制度を理解し、現代において重要となる幾つかのトピックを取りあげて考察する。すなわち、基本文献に沿って医療経済の基礎を確認しながら、現代日本経済が直面する少子高齢化、経済のグローバル化、地域社会の衰退などの問題を調査し考えていく。</p> <p>こうした作業を通じて、医療経済が、現代の諸問題とどのように関連して如何なる課題を抱えているのかを確認する。同時にグローバル化する世界経済の観点から、社会科学的思考に基づいて、アジア社会における人間の生存や薬剤の生産・流通を取りあげる。</p>	
	生命科学特論	<p>「エピジェネティクス(epigenetics)」とは何か。ジェネティクスに対応する新たな生命現象のしくみについて学ぶ。2003年のヒトゲノムの全塩基配列の解読はわれわれに多くの恩恵をもたらした一方で、当初の予想に反し、生命現象の複雑さを遺伝子数のみでは説明できないことが明らかとなっている。高次な生命活動を包括的に理解するために、再び遺伝情報の読み取り(デコード)に注目が集まっている。知れば知るほど謎が深まる生命科学の現状を学ぶと同時に、この学問はわれわれを幸せにするのかについて互いに考えたい。</p>	
	精神保健学特論	<p>今日、わが国では働く者のうつ病、家庭や学校でのいじめや虐待の増大、年間3万人を超える自殺の持続など、小児から高齢者までのあらゆる年代のメンタルヘルスは危機的状況下にあり、私ども医療者がこうした問題に直面する機会も多い。本講はこのような現状をどのように捉え、そのための解決策は何かを考えることを目的とする。具体的には履修者個々人の関心にそったテーマに関する調査・研究結果の発表と教員の補足を通じて、医療者としての役割や対処法などを議論しつつ問題への認識を深める機会とする。</p>	
	神経科学特論	<p>生命現象は大きく動物性機能と植物性機能に分類される。動物性機能では、おもに人体の活動を統合する情報処理が行われ、感覚系、神経系、運動系が連動して営まれる。これらの相互の系を連絡しているのが神経系であり、神経系は脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄からなる中枢神経と、脊髄神経、自律神経(交感神経、副交感神経)からなる末梢神経に分類される。中枢神経系は、反射と統合部位であり、末梢神経には、感覚神経、運動神経、自律神経がある。生命現象の理解には、神経系としての中枢、末梢神経と反射反応の理解が不可欠である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(32 和泉博之/13回) 動物性機能における中枢神経系の基本構造とその機能、および末梢神経系を含めた感覚運動系の統合過程について解説する。</p> <p>(28 倉橋昌司/2回) 人体の動物性機能のうち、特に自律神経系を中心に解説する。</p>	オムニバス方式

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療統計学特論	保健医療領域の研究で必要となるデータの解析方法の理解と習得を図るとともに、保健医療研究に関する各種データの統計的解析と結果の解釈について学ぶ。 本授業では、パラメトリック手法とノンパラメトリック手法の一般的な統計手法について取り上げ、各統計手法の理論から情報機器を利用した具体的なデータ処理方法までを学習することで、リハビリテーション科学研究に応用できるようにすることを目的とする。	
専門科目	生体構造機能・病態解析学分野 解剖学特論	解剖学は人体を対象とした学問体系の中で最も基礎的な学問であり、臨床症状とその要因を関連付けて考察する際にも必須の知識である。臨床症状の原因を解明するには、解剖学を局所的に掘り下げて、構造だけではなく機能的な視点を持って学び、考察を深める必要がある。解剖学特論では、様々な臨床症状に対して、構造的視点と機能的視点を通じて、その予防方法や治療方法を、学生自身が調査・考察することを学ぶ。 (オムニバス方式／15回) (7 高橋尚明／12回) 四肢・体幹を中心に、構造と機能について局所的に習得し、理解する。 (17 坂倉康則／3回) 頭頸部の構造と機能について局所的に習得し、理解する。	オムニバス方式
	解剖学演習	解剖学特論で学んだ、臨床症状とその要因について、実際の解剖実習体を用いて三次元的に考察し、その臨床症状の予防方法や治療方法の検討などを具体的に学ぶ。また、各自が持つ臨床における疑問点について、解剖学的構造や機能解剖の視点を基に考察し、解決させる。 (オムニバス方式／15回) (7 高橋尚明／12回) 四肢・体幹を中心に、構造と機能との関連性について熟考させ、深化させる。 (17 坂倉康則／3回) 頭頸部の構造と機能との関連性について熟考させ、深化させる。	オムニバス方式
	身体運動科学特論	身体運動や外部環境の変化に対する人体の調節機構について概説し、特に筋骨格系、呼吸循環器系および内分泌代謝系における身体組織の適応の仕組みについて学習する。 (オムニバス方式／15回) (14 宮崎充功／7回) 身体の活動時／非活動時における身体組織の適応性について、特に筋骨格系の可塑性を中心に解説する。 (8 山口明彦／8回) 身体の活動時／非活動時における身体組織の適応性について、特に呼吸循環器系および内分泌代謝系の可塑性を中心に解説する。	オムニバス方式
	身体運動科学演習	身体運動科学および運動生理学分野における研究手法として、特にヒトを対象とした解析技術（最大酸素摂取量や筋パワー測定など）、動物を対象とした解析技術（生体サンプルを用いた遺伝子・タンパク質の発現解析、免疫組織化学解析など）および培養細胞を対象とした解析技術（遺伝子クローニングや遺伝子導入など）について概説し、演習を通じて基本的な解析技術を身につける。 (オムニバス方式／15回) (14 宮崎充功／8回) 身体運動科学分野における研究手法として、特に実験動物および培養細胞を用いた解析技術について概説し、演習を行う。 (8 山口明彦／7回) 身体運動科学分野における研究手法として、特にヒトを対象とした解析技術について概説し、演習を行う。	オムニバス方式
	運動・動作解析学特論	運動障害に対して適切なリハビリテーションを実施するうえで、身体運動・動作の異常を見極め、その原因を探ることは重要である。本特論では、身体運動・動作の特徴とその仕組みを科学的に捉えるための計測・解析手法について学ぶ。具体的には、動作解析装置、床反力計、筋電計等を用いた計測・解析手法を授業主題に取り上げる。	
	運動・動作解析学演習	運動・動作解析学特論で習得した知識と技術をもとに、リハビリテーション科学領域における身体運動・動作解析関連の論文抄読や、種々の計測機器を用いた実験を通して、臨床ならびに研究場面に応用できるよう理解を深める。	

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 リハビリテーション治療学分野	内部障害リハビリテーション学特論	呼吸・循環機能障害および代謝・栄養障害に対する評価方法や治療方法は、特に生活習慣病予防や保健医療学アプローチとの関連では国民から強く求められる分野である。内部障害の病態や障害を分析し、それらの回復メカニズムと理学療法や作業療法によるトレーナビリティおよび効果判定について教授する。	
	内部障害リハビリテーション学演習	呼吸・循環・代謝機能およびその障害やリハビリテーションに関する研究論文から最新の知見に触れ、その病態および障害を多面的に分析するとともに、新たな評価方法の開発や治療学的アプローチおよび予防医学的アプローチの可能性について議論する。	
	運動障害リハビリテーション学特論	運動の障害は筋や関節といった効果器の問題からそれらを制御する中枢神経系、さらには駆動させるためのエネルギー代謝系まで非常に幅広い。こうした運動障害に関連する様々な病態を理解し、科学的で効果的なリハビリテーション的介入方法を学ぶことを目的とする。 (オムニバス方式／15回) (5 吉田 晋／10回) 運動器障害、中枢神経障害、代謝障害等による運動障害のメカニズムとリハビリテーション的介入方法 (16 大塚裕之／5回) 中枢神経系の可塑性と運動学習理論	オムニバス方式
	運動障害リハビリテーション学演習	運動障害の病態は非常に幅が広く、またそのアプローチ方法も多様である。しかし、科学的根拠に基づくものは意外と少ないのが現状である。本演習では論文レビューによりエビデンスを検証していくと同時に、実際の治療手技をバイオメカニクス、神経生理、運動生理学的な変化としてとらえ、その作用を客観的に表す手法を学ぶ。 (オムニバス方式／15回) (5 吉田 晋／10回) 文献レビュー、バイオメカニクス、運動生理学的な検証方法 (16 大塚裕之／5回) 神経生理学的な検証方法	オムニバス方式
	発達障害リハビリテーション学特論	発達障害リハビリテーションの対象となる、妊娠期・周産期・新生児期や学童期等の発達段階に関わる中枢神経障害や骨・筋・神経・関節などの発達や発育に影響する障害に対して、科学的根拠を基にしたリハビリテーションの評価法、治療手段について学ぶ。	
	発達障害リハビリテーション学演習	発達障害リハビリテーションの対象の中心である、脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、注意欠陥多動障害、アスペルガーなどの疾患の評価法、治療手段を科学的根拠を基に分析し、クリティカルレビューを行い、報告する。	
	精神障害リハビリテーション学特論	精神障害によって引き起こされる様々な生活機能障害に対する効果的なリハビリテーションについて、現在、効果検証がなされている治療手段や関連する最新の技法について、その理論や支援技術に関する理解を深めることを目的とする。 精神障害に対するリハビリテーションの理解を深め、リハビリテーション職種として必要な精神障害に対するリハビリテーションのあり方を学ぶ。 なお、本講義は講義と学生によるディスカッションを中心に展開する。 (オムニバス方式／15回) (23 坂野雄二／5回) 精神障害に対する認知行動療法に関する理論や援助について概説するとともに科学的的方法論及び研究法について講義する。 (13 浅野雅子／10回) 精神障害に対するリハビリテーションの理解と援助、認知機能障害の評価、音楽療法、園芸療法などについて概説する。	オムニバス方式
	精神障害リハビリテーション学演習	日々の実践を進めていく中で発見された援助技術や援助方法を、精神障害者リハビリテーションサービスの質の向上に役立てることは重要である。本講義では精神科リハビリテーションの実証的研究を行うため、実践で行われている技術や方法などの有効性を科学的に明らかにするための研究方法について学ぶ。研究計画の作成、研究の実践、論文にまとめる行程を経て、最終的に実践研究が行えるようになることを目標とする。	オムニバス方式

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域健康 生活支援 学分野	作業行動学特論	リハビリテーションにおいて人の作業とは、家事や仕事の仕事の活動、身辺処理活動、レクリエーションやレジャーなどの遊び的活動からなる。この「遊びと仕事のまったくの発達の連続性」を作業行動と定義している。本講義では、前半においてこれらの概念の源流から歴史の変遷の中で進化や深化を概説し、その理解を深める。後半は、これらの作業ができない状態（作業機能障害と呼ばれる）についての改善方法・取り組むべきこと・そのための評価法とアプローチの方法等の解説を行い、次いで臨床や地域での適用についての討論を通して、作業行動学的観点に基づく実践についての素養を学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (9 鎌田樹寛/7回) リハビリテーションの源流からの科学や学際的変遷（作業パラダイム・作業行動理論・人間作業モデル・作業科学）の進化や深化について学ぶ。 (10 本家寿洋/8回) 心身機能の障害やそれが予測される対象者が陥る作業機能障害の改善や、潜在能力の引き出し方について、人間作業モデルによる評価測定とアプローチ方法の適用や応用方法を用いた臨床（小児期・成人期・老年期）や地域支援に関する実践例を基に、具体的討論を通して理解を深める。	オムニバス方式
	作業行動学演習	本演習では、特論で講義された内容に基づいて、作業行動学観点に関連される学際的諸学問の最新状況の検討を通して、作業機能障害に関する新たな改善方法や介入アプローチ・評価法の開発等について探索することを目的とする。 (オムニバス方式/15回) (9 鎌田樹寛/8回) 心理・行動科学（特に動機づけや行動変容）に関する最新研究レビューや論文抄読を通し考察を深め、討論を通しながら、作業機能障害の状態から改善され得る新たな適用や応用方法について、その可能性を吟味する。 (10 本家寿洋/7回) 脳・神経・障害科学及び、ナラティブ・現象学アプローチ等に関する最新研究レビューや論文抄読を通し考察を深め、討論を通しながら、作業機能障害の状態から改善され得る新たな適用や応用方法について、その可能性を吟味する。	オムニバス方式
	地域生活支援学特論	地域生活を支援するうえでの基盤となる地域リハビリテーションの理念を理解し、ケアに関わる者が果たすべき役割について理解を深めながら、地域リハビリテーション推進のためのリーダーとして活躍できるような実践的能力の基礎を醸成する。具体的には、地域生活支援に必須である、セラピストとしてのマネジメント能力、組織のマネジメント能力、地域診断に関する能力、多職種との連携や協業、地域生活者に対する個別支援能力等についての必要性を理解し、実践のための基礎力を涵養する。	
	地域生活支援学演習	地域生活支援学特論で学んだ理解を踏まえ、地域生活者の様々な生活支援場面に対する支援として、具体的な対応策が提案できるよう、企画・立案能力を高める。 講義の中では、様々な事例（生活場面支援）について学生側が具体的な提案を行い、その内容を教員並びに他の受講者と議論する形で講義を進めて行きたい。	
隣接科目	公衆衛生調査法	公衆衛生学の観点から実施される研究方法を概説するとともに、学生が学生に対し講義を行うことにより、実際の研究への応用につき学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (33 三宅浩次/3回) 公衆衛生学の観点から実施される研究方法を概説する。 (21 志渡晃一/6回) 疫学の観点から、研究設計、調査方法、疫学指標、統計解析について概説する。 (19 西 基/6回) 各種統計指標につき、学生が学生に対し講義を行う形で実際の使用法を学ぶ。	オムニバス方式
	遺伝医学・医療論	遺伝医学とヒトゲノム医学の基本を学び、遺伝性疾患への理解を深めるとともに、様々な遺伝病患者やクライアントへの援助のあり方を学ぶ。さらに、遺伝性疾患を題材に小児医療における生命倫理を学ぶ。 現在、人の遺伝子は2万数千であることが判明している。また、次々と疾患遺伝子の解明が進み、単一遺伝病のみでなく、いわゆるありふれた疾患（common disease）といわれている多因子疾患、たとえば糖尿病、高血圧さらにはがんについても遺伝子レベルで解明が進んでいる。従って、遺伝医学、ゲノム医学、医療とくに遺伝子診断・出生前診断・遺伝子治療などについて学び、さらにその問題に潜む医療における生命倫理、状況に応じた倫理的判断のしかたを学ぶことは医療関係者にとって不可欠である。 授業では、メンデル遺伝学など古典的遺伝学から新遺伝学（new genetics）といわれている臨床分子遺伝学まで、広く遺伝学の知識の習得をはかるとともに遺伝学のもう一つの側面である倫理的・法的・社会的側面についてもふれ、遺伝病患者に関わる援助者の立場からの討論を通して考えを深めていきたい。	オムニバス方式

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講義等の内容	備考
隣接科目		<p>(オムニバス方式／8回) (29 松田一郎／2回) 遺伝サービス、遺伝医療における生命倫理 (1 新川詔夫／4回) 遺伝生物学、古典的遺伝医学：メンデル遺伝と細胞遺伝学 (24 太田 亨／2回) 分子遺伝学：遺伝子構造とその変異、新遺伝学とゲノム医学</p>	
	心身医学特論	<p>全人的医療の中核をなす心身医学、その臨床実践である心身医療の概要を、歴史的考察を踏まえながら、精神生理学的、病態心理学的、心理社会的、行動医学的視点から説明を加え、いわゆる「心身症」と称される疾病群について、発症因子、発病機序、症状、症状持続化要因、診断法、治療法、予後などについて学ぶ。 こころと身体とは相補的關係（心身一如）にあることから、疾患を軸とした心身相関の理解が本特論のポイントになる。総論および代表的な心身症各論を解説し、併せて、臨床現場における医療心理学的知識の重要性に触れる。</p>	
	ヘルスプロモーション論	<p>オタワ憲章（1986）は「ヘルスプロモーションとは、人びとが自分の健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と唱っている。このことを地域保健福祉活動などの実際と結びつけて理解する。授業では、ヘルスプロモーション活動における医療職・福祉職の役割と機能に焦点を当て文献講読を行なうとともに、地域でのヘルスプロモーション計画の具体案の作成と発表を行う。</p>	
	音楽療法特論	<p>現在の音楽療法は、文化人類学、発達心理学、音楽心理学、音響学、脳神経学などの学際的分野の理論を背景として、独自の理論を構築している最中である。本講義では、音楽療法の背景となる諸理論や哲学に触れながら、構築されつつある音楽療法の理論について理解を深めることを目的とする。 なお、本講義は講義・学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に展開する。 (オムニバス方式／15回) (25 近藤里美／13回) 音楽療法とは何か 様々な音楽療法の定義から理解する Music and Consciousness (音楽と意識の関係) について学ぶ。 The Field of Play まとめ (36 鈴木はるみ／2回) Music Child (私たちの中にある「音楽性」) について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	障害福祉学特論	<p>「人間が精神を病む」という現象を、いかに捉えるかという議論は、精神生物学や精神病理学、哲学、思想等広範な領域を巻き込む深遠なテーマとして今日に引き継がれている。それは、ともすれば病をかかえる当事者不在の議論になりがちであった。エンパワメント・アプローチの視点は、その議論の中心に、あらためて当事者の視点を持ち込むことの正当性を主張し、昨今の精神生物学的な治療への偏重を批判する。本講義は、当事者論の視点から、「精神医学」の歩んだ歴史と周辺の理論の整理をし、浦河べつてるの家で試みられている「当事者研究」の実践活動から、あるべき当事者論を学ぶ。</p>	
	高齢者福祉学特論	<p>高齢者や障がい者を取り巻いて、さまざまな権利侵害状況がメディアなどを通して明らかになってきている。とくに、本来は利用者の最善の利益を追求すべき社会福祉施設などでの虐待事例、さらには家庭内での虐待事例など、極めて深刻な権利侵害事例が報告される機会が多くなってきている。 そこで本特論では、高齢者を中心としたアドボカシー（権利擁護と個別の生活ニーズへの対応）を主テーマとして、研究を進めることとする。その際、アドボカシーを支えるいくつかのシステムとして、下記のスケジュールに記載している諸システムの制度、仕組み、意義などについて検討する。</p>	

(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻)

科目群	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導	リハビリテーション科学研究	<p>(概要) リハビリテーション医学や学際的な科学に関して、多面的かつ包括的に研究の実践、指導を行い、研究テーマに沿った学術性の高い論文指導を行う。</p> <p>(2 泉 唯史) 呼吸・循環・代謝疾患に伴う運動病態生理学の理論や新知見をベースに、これらに対する新たな評価法や治療法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 上野武治) 発達障害を含む精神障害や精神疾患のリハビリテーションに関する医学・保健学的あるいは職業的・社会的側面からの課題の研究指導を行う。</p> <p>(9 鎌田樹寛) 本研究指導では、作業行動学的観点に基づいたアプローチに焦点化した科学的根拠を持つ評価法の開発、ならびに効果的な治療や援助方法の確立を目標とした調査・比較研究を指導する。</p> <p>(10 本家寿洋) 上記研究指導の補助を行う。</p> <p>(4 鈴木英樹) 地域在住高齢者の生活環境支援並びに積雪寒冷地における介護予防を研究課題とし、両課題に対する具体的な方策に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 千葉芳広) 上記研究指導の補助を行う。</p> <p>(3 小島 悟) バイオメカニクスをはじめとする運動学的手法を用いて、ヒトの身体運動・動作の特性やその発現機序に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 高橋尚明) 人体の構造と運動機能について、肉眼解剖学的手法を用いて考察し、リハビリテーションに必要な機能解剖学に関する研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(5 吉田 晋) 神経生理学、バイオメカニクス的手法を用いて、運動器疾患や中枢神経疾患に対する効果的なリハビリテーション的介入方法を探究する課題の研究指導を行う。</p> <p>(16 大塚裕之) 上記研究指導の補助を行う。</p> <p>(6 堀本佳誉) 発達障害リハビリテーションの対象の中心である、脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、注意欠陥多動障害、アスペルガーなどの疾患に対する評価方法、治療手段に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 浅野雅子) 精神障害者に対する作業療法介入の実践や精神科リハビリテーションに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(14 宮崎充功) 筋骨格系を中心とする身体組織の可塑性について、特に身体の活動時／非活動時における適応変化の分子メカニズムを解明するため、運動生理学、生化学および分子生物学的な解析手法を用いた研究課題に関する指導を行う。</p> <p>(8 山口明彦) 上記研究指導の補助を行う。</p> <p>(12 国永史朗) 上記研究指導の補助を行う。</p>	